

観光・創造都市・国際戦略特別委員会での議論について

1 議論の経過

(1) 8月1日 調査・研究テーマの設定、MICE戦略素案について当局説明

<主な意見>

- ・市内の中小企業との連携強化や発注の促進に注力していくべき。
- ・経済政策としてのMICE戦略も必要。
- ・観光客にむけたオープンデータの活用を進めるべき。
- ・MICEの推進役となる人材の育成が大事である。
- ・横浜ならではのMICEは行政、民間事業者、議会のみならず横浜ならではのMICE推進にとりくむべき。
- ・MICEという言葉自体の浸透度の低さも課題ではないか。

(2) 10月1日 アフリカ開発会議の報告及びインナーハーバー構想の当局説明

<主な意見>

- ・アフリカ開発会議のような大規模な国際会議を活用して横浜のハード面とソフト面の魅力がどのように評価されているのかを分析することが大事だ。
- ・アフリカ開発会議の成果としてさまざまなデータを直接会議にかかわらなかった市民にも伝わるようにすることが大事。
- ・横浜市独自の経済波及効果モデルを開発するべき。
- ・グローバル化の時代のなかで小中学生にアフリカ開発会議の効果をつなげていく必要がある。

(3) 11月28日 【参考人招致】MICEを活用した横浜のまちづくりについて

- ・海外の施設と規模で競うのではなく、自分たちも気づいていない横浜の強みを押し出していくべき。
- ・私たちが横浜の魅力に気づいていない。今あるものはしっかりアピールしていくべき。
- ・横浜の付加価値を追加して主催者や参加者の満足度をいかに高めるかが重要だ。
- ・強みを打ち出していくことが大事だからこそMICE関連分野の専門的な人材を育てるべき。
- ・利用者の視点で考えると、勉強も情報共有もビジネスもでき、楽しかったと感じられる施策を講じていくべき。
- ・今の施設規模で弱点となっている機会損失や営業力の強化などを分析していくべき。
- ・アフターコンベンションで会議終了後に周辺のまちに出かけていくような仕組みやまちづくりと一体となったMICE施策が必要である。
- ・横浜におけるサービス業で何が本当に不足しているのかを調査し、市内企業の自給率の向上を図るべきである。

2 まとめに向けた主要な論点

- まちづくりについて
 - ・ 各地域の個性の際立ち、ゾーニング、宿泊設備の充実
 - ・ パシフィコ横浜から各まちへの交通アクセス・ツール
 - ・ PR手段

- 地域経済の活性化につながるしくみについて

- MICEを推進するための人材育成について

- 調査・分析の活発化と工夫について